| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| タイトル | 我が国の救急医療体制と 病院前医療体制の概要 | 消防機関における救急業務及び救急救命士制度に対する理解 | MCの基本と運用の理解 | 救急救命士が実施する救命処置 | WS：オンラインMC | MCに関わる関連法規に対する理解 | WS：事後検証、症例検討会の方法論 | WS：救急救命士等に対する教育 | WS：MC及び指導医の今後の展開 | 局所災害時のMC |
| 講師 | 細川先生　22枚 | 森川先生　26枚 | 阪本先生　108枚 | 井上先生　42枚 | 伊藤先生　42枚 | 西田先生　43枚 | 山下先生　8枚 | 梅村先生　？枚 | 坂本先生　26枚 | 高山先生　16枚 |
| テーマ | 救急業務の対象と応急処置<br>救急病院等を定める省令<br>救急救命士法と応急処置の拡大<br>救急隊の編成<br>消防法の改正<br>協議会の組織と実施基準<br>MC体制の確保<br>MC協議会の役割<br>医療法における医療計画の位置づけ<br>救急医療体制と救急医療の充実<br>MCにおける、今後検討すべき事案 | 消防組織の概要<br>広域消防応援と緊急消防援助隊<br>救急業務<br>救急隊数と救急救命士運用状況<br>特定行為<br>処置範囲拡大の経緯<br>MC体制<br>処置範囲拡大とMC<br>救急救命士の養成と救急隊員の生涯教育<br>指導救命士の役割と育成<br>出動件数、搬送時間の推移<br>救急搬送の現状<br>救急搬送における緊急度判<br>救急安心センター事業の普及促進<br>救急業務における今後検討すべき事案 | MCの実際<br>MC体制の確保<br>MC協議会の状況<br>包括指示と具体的指示<br>救急活動の記録<br>救急業務と医療施設の連携<br>医師の現場出動<br>佐賀県のドクターカー、ドクターヘリ事業<br>事後検証<br>活動記録票と事後検証<br>全国事後検証実態調査結果概要<br>全国MC体制実態調査結果概<br>検証医師の要件<br>メディカルディレクターの要件<br>佐賀県におけるICTを用いた救急医療体制評価<br>熊本震災における佐賀県MC体制の活用 | 救急救命処置<br>応急処置<br>各救急救命処置<br>特定行為<br>救命士処置拡大の経緯<br>救急救命処置と医師の指示<br>特定行為の対象<br>応急処置、特定行為の実施状況<br>処置拡大における課題 | プロトコルとは<br>地域医療事情とプロトコル<br>各種プロトコル、特定行為で用いる年齢定義<br>プロトコル実施に必要な時間<br>プロトコル作成（グループワーク）<br>MCの役割<br>オンラインMCに必要な項目<br>オンラインMCの実際（グループワーク） | 法規の構造<br>憲法と法律の関係<br>法律と命令の関係<br>命令と告示の関係<br>救急救命士法の構造<br>救急救命処置の位置づけ<br>医師法<br>保助看法<br>医行為と診療の補助の関係<br>医療にまつわる法的責任 | PDCAサイクル<br>検証のためのガイドライン策定<br>検証の方法論<br>検証の実際<br>検証医所見<br>検証するポイント<br>検証する際の注意点 | 医療機関内と病院前での医療の違い<br>救命士教育の問題点<br>救急隊の活動<br>救命士の再教育 | 救急医療体制の歴史<br>救急業務の変遷<br>MC体制の確保<br>オンラインMC、オフラインMC<br>具体的指示と包括的指示<br>MC医師 | 平時のMCとの違い<br>地域防災計画<br>災害時における消防と医療の連携<br>災害現場における体系的な対応<br>福知山線列車事故<br>MCLSコースについて |
| 必要項目 | 国レベルの救急医療体制について | 国レベルの消防業務について | | 救命処置に関する事項 | | | | | | |
| 考察 | 前回に比べて救命士に関するスライドが減少し、他講義と重複する部分がかなり少なくなった。ドクターカー等の病院前医療における医師の関与についての言及がなかった。 | 特定行為や拡大処置等については、「救命処置」という講義があるので、ここでは軽く流して良い。通信指令員に関する説明の追加が望ましい。 | 演者が所属する佐賀の実例の紹介が多すぎる。時間に対しスライドが多すぎる | GIO、SBOがきちんと提示されている。問題なし。 | WS2では、どのようなテーマでグループワークを行ったのか分からない。個人的には福岡会場の伊藤先生の事前講義＋東京会場の森村先生の進め方を合わせた講義が良いと思われる。 | 一部の重なりあるが仕方がない内容。法的責任について、追加必要 | どのようなグループワークを行ったか不明。検証医師についての説明必要。 | 議論のための参考資料しかなく、どのような講義、グループワークを行ったか不明 | どのようなグループワークを行ったか不明。SBO、キーワードを網羅して欲しいという依頼が周知されていたか疑問。この研修は救急科専門医だけが受講するものではないので、救急科専門医というキーワードが必要か不明。 | 内容的には多数傷病者事案ではなく、局地災害について書かれている。セッション名がSBOを正しく表していない為と思われる。「出動現場での医師との協働」などはいかがか？ |
| SBOの達成 | B | A | A | A | B | B | C | ? | ? | C |
| キーワードの収載 | B | B | B | A | B | A | C | ? | ? | C |
| SBO | 救急医療体制について説明できる<br>救急医療の現状について説明できる<br>救急医療体制の歴史と現状について説明できる<br>病院前医療における医師の関与について説明できる | 消防組織と救急業務について説明できる<br>救急出動体制について説明できる<br>通信指令システムについて説明できる | MCの目的を説明できる<br>MC体制を説明できる<br>MCのコア業務を説明できる<br>コア業務という言葉の使用な<br>地域のMC体制について説明できる | 救急隊員が行う処置について説明できる<br>救急救命処置について説明できる<br>特定行為について説明できる | オンラインMCとオフラインMCの違いを説明できる<br>オンラインMC時の注意点を説明できる<br>情報伝達における注意点を説明できる<br>オンラインMCを実施できる<br>オンラインMC体制の現状について述べることができる | 法の構造について説明できる<br>救急救命処置の法的位置づけについて説明できる<br>医療にかかわる法的責任について説明できる<br>メディカルコントロール体制における法的責任について説明できる | 事後検証の方法論を説明できる<br>検証医師に求められる知識について説明できる<br>事後検証を実施できる<br>事後検証、検証会議の現状について述べることができる | 救急救命士の養成課程教育・再教育について説明できる<br>救急業務に関する生涯教育について説明できる<br>救急救命士教育の現状について説明できる<br>救急救命士の病院実習について議論できる | MCの現状と課題について議論できる<br>MC医師として今後の活動について議論できる<br>医師のMC研修について議論できる<br>→議論できるか不明 | 現場医師派遣システムについて説明できる<br>出動現場での消防と医師の連携について説明できる<br>災害時の消防と医療の体制について説明できる<br>災害時と平時のMCの相違点を説明できる（災害時におけるMCの課題を説明できる）<br>局地災害への計画、現場対応、検証、教育・訓練について説明できる |
| キーワード | 救急医療体制<br>医療圏<br>初期・二次・三次救急医療機<br>ドクターカー・ドクターヘリ<br>救急救命士<br>病院前救護体制のあり方に関する検討会 | 消防組織<br>救急業務<br>救急隊・救急救命士・指令員<br>救急隊の編成<br>出動件数・搬送時間<br>通信指令<br>口頭指導<br>電話による緊急度判断<br>緊急度に応じた救急出動 | 病院前医療<br>メディカルコントロール協議会<br>救急救命処置<br>プロトコル<br>指示<br>指導・助言<br>検証<br>教育 | 応急処置<br>救急救命処置<br>特定行為<br>救急活動記録<br>具体的指示<br>包括的指示 | オンラインMC<br>オフラインMC<br>プロトコル<br>特定行為<br>指示要請<br>処置時間<br>処置現場<br>オンラインMC記録<br>包括的指示・具体的指示<br>情報伝達 | 法規の構造<br>救急救命士法<br>法律<br>命令（政令・府省令）<br>告示<br>医行為・診療の補助<br>刑事上の責任<br>民事上の責任<br>行政上の責任 | プロトコル<br>検証の標準化<br>救急活動記録<br>一次検証・二次検証・三次検<br>フィードバック<br>検証医師 | 養成課程<br>就業前病院実習<br>再教育病院実習<br>救急救命技術研修会<br>症例検討会<br>128時間<br>生涯教育の指針<br>指導救命士 | MCの現状<br>MCの課題<br>MC医師<br>MC医師研修<br>救急科専門医 | ドクターカー<br>ドクターヘリ<br>災害時消防体制<br>DMAT<br>指揮命令<br>トリアージ<br>現場処置<br>搬送先選定<br>事後検証<br>災害対応計画 |
| まとめ | 各セッション間でのスライドの重複は少なかった。講義時間に比し、スライド枚数が極めて多い講義が見受けられ、全体のバランスを図る必要がある。事前に指定されたSBOやけーワードが十分に盛り込まれていないセッションが見受けられた。スライドの中でSBOの提示をしキーワードを網羅した内容になるよう周知徹底する必要があると思われた。 | | | | | | | | | |

A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十
A・B・Cの3段階評価（A：十分、B：やや不十分、C：不十